

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (017501803), 法人名 (三井ヘルスサービス株式会社), 事業所名 (グループホームあかり), 所在地 (札幌市白石区栄通6丁目6-16), 自己評価作成日 (令和2年10月6日), 評価結果市町村受理日 (令和3年4月6日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170501803-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年3月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様には明るく笑顔があり、楽しい生活を送っていただくために、家庭的な雰囲気を保ち、相手を敬う気持ちを持って日々接するようになっています。
・コロナ禍により、中々家族様と会う機会が少なくなり、ホームでは動画やお手紙等で近況をお知らせし、体調変化時等にはかならず主治医に連絡し、指示などをいただき、家族様に連絡し、状況をお知らせしています。(往診後は必ず連絡)
・コロナ禍により推進会議等も2回のみで、地域の方々や役員の方に必要な連絡事項などは、電話連絡や意見等を聞き取りさせていただいています。
・以前より、看取りをさせていただいていますがご家族皆さんが口ぐちに最後一緒に居られて看取れたのは本当に良かったと話されることでした。
・介護員の少ない中、入居者様が重度化して来ている中、スタッフは如何に入居様に居心地良く美味しく食べられたり、どうしてあげれば良いかを勉強会、カンファレンス等行い、管理者、スタッフと話し合い、居心地の良い生活を常に考えています。
・コロナ禍により、H29年度から認知症カフェを行って来ましたが現在はできない状態なので落ち着いたらまた、地域の方々とのコミュニケーションを図りたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 運営の基本事項(施設設備の環境・機能性、至便性等); 1階がデイサービス併用の2階に1ユニットのホーム。地下鉄等交通至便、閑静な住宅街の環境。居間・食堂・介護機能設備を囲んで居室があり、住まい・介護共に効率・効果的で至便。花壇・畑も楽しめ、近隣の環境も良い。
2) 職員の介護の姿勢・態度; 職員は事業理念・介護の基本研修を重ねて、利用者本位で、利用者・家族の声に耳を傾け、丁寧な対応・連絡対応の姿勢で介護に専念している。
3) 家族等の介護への好感度; 月例の生活近況報告(直筆の説明・写真等)、高齢化・重度化状態にある利用者への真摯な介護と優しい応接に、高い好感を寄せている。
4) 運営推進会議開催状況; コロナ禍で、定例開催が不可能になっているが、通例通り、詳細な運営状況を関係者に送り、意向の把握と、理解を得よう努めている。
5) 地域自治組織・機関等の連携; 近隣との信頼関係の維持と、運営推進会議関係者との連絡を保って、地域自治組織・機関等との連携ある運営に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍前は毎朝申し送り後、夜勤者、日勤者と共に理念を唱和し、理念の意識を共有し、実践を行うように心がけていましたが、現在は声を出さず目視し、心で唱和を行っています。	事業理念「利用者とともに、馴染ある地域で、家庭的に、皆が心穏やかに、ありのまま、そのひとらしく」を旨に、職員は相互に共有して、研修に励み、真摯な介護に専念している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いままでは地域の方と交流が持てるように常に行事などに参加し、地域一体となって取り組んで来ましたがコロナ禍となり、連絡などは行っていますが、直接的には会えない状態です。	通例は地域の一員として、恒例行事等に参加して、ホームの理解を得てきた。また地域総会や役員会に会場として利用してもらうなど役割の一端を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には、認知症のホームということを理解していただいております、行事の誘いや地域の総会、役員会には場所を提供して提供してありますがコロナ禍の為、現在は使用していません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2回行いましたが、コロナ禍になり、その後市役所には毎月連絡し、町内に関係ある事柄は会長様に連絡しております。	運営推進会議は、町内会、民生委員、包括支援センター、家族等の参加を得て、運営状況を説明して参会者の意向を運営に反映してきた。現行は毎月行政への運営状況報告や町内会長への報告で意向を伺っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に繋がりはありませんが、わからないことがある場合は、アドバイスいただいています。	行政の関連は通常、包括支援センターの運営会議参加が主であるが、現行は上述の報告や事故報告等必要に応じた情報交換での動向把握に留まっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に3～4回必ず、研修を行っています。現在身体拘束を行っている利用者様はいません。	身体拘束委員会は定例に開催。同指定基準に示す介護の基本事項を事例で検討、結果を定例職員会議で周知に努め、職員の資質向上に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の研修、毎月の勉強会を通し、常に話し合いを行い、虐待防止に努めている。社外はコロナ禍により、3回のみでの研修でした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時には説明など行っていますが今までに利用されていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、退去時の説明を丁寧に行い、理解及び納得を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月開催する勉強会やミーティング、毎日のカンファレンスの中で職員の意見や提案を管理者は聞き入れ、その都度話し合いを設け、より良い職場環境作りに反映している	月例開催の職員勉強会やカンファレンス会議等での利用者個々の状況把握に努め、各職位から専門的観察結果や来訪時等の家族の意見等を聞き取り、運営に活かしている。また、年1度の家族交流会は相互の信頼構築の場であり、意向等把握の機会となっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は月に何度かホームに来所され、職員に対しての困っていることや質問などに耳を傾け、常に状況を把握されている。管理者とは常に話し合いを持っている。	法人代表者が月に数度、職員意向を傾聴して、管理者等に課題を示唆。管理者は年2度の個別面談や定例職員会議等の各職位の業務上の見解を、運営や福利厚生に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員の言葉に耳を傾け、その都度アドバイスをしていただき、職場の環境に取り組んでいただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その職員に何ができて、何ができないのか見極め、ケアにあたっています。判断できない事柄はかならず聞くように促し、勝手に行わないように指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHの連絡網はありますが、今年度交流はできませんでした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	調査訪問の時点で、本人の好むこと、好まないことを事前に本人、家族様に聞き、趣味などを反映できるように行い、不安のない生活ができるように対処しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族様と連絡を行い、その時々で速やかに相談、及び解決するよう行っています。本人の気持ちに共感し、不安のないような対応に心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関との連携、歯科医、リハビリの方にも来所していただき、常に連携を図り、対応に努め在宅の主治医と連携し、24時間対応していただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あかりは重度化にあり、たたみ物やウエス作りなど2～3人程いますので、できる方にはゆっくりで行っていただいたりしています。利用者の得意な事を通じ、学んだり、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所前調査で、利用者の生活歴や趣味、願い等をあらかじめ理解しておくように努めていましたが、殆どの方ができなくなっている状態ですが、家族様には本人に対しては安心して過ごせるように対処していることを常に伝えていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症状が進行と共に、コロナ禍において家族様とも会えない状態で動画でお姿をみていただいたり、写真などを送るなどを行っています。	通例は家族等が来訪する機会等を大切に、利用者との馴染の関係支援に努めている。コロナ禍で、家族とは動画や写真を活用した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に努めており、職員も一緒に関わりながら楽しめる関係作りに努めている。本人や家族からの情報収集、又、職員が感じた事を記録に取り、職員間で情報の共有を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度はコロナ禍になり、認知症カフェも開催できずになりましたが、問い合わせや相談などには対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々体調により、変化があった場合も笑顔がみられるように工夫を行い、本人の気持ちを汲み取れるよう、入居者に寄り添って生活しています。	入所以来のアセスメント記録の継続や、日常の言・動・生活ぶり等の観察結果を職員間で共有し、個々の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の状況や家族から情報収集し、生活の場からその人の特徴を見極めた上で、その人にあった生活環境が保てるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を取りながら利用者一人ひとりの生活リズムや声に耳を傾け、その行動を把握した上でその人に応じた対応を行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回は本人の意見やどのようなケアが必要なのか、アセスメント、モニタリング、担当者会議を開き、解決に努めている。	介護計画や変更にあつては、定例職員会議(カンファレンス、アセスメント等)での協議結果を基に、計画作成者を軸に、家族の意向等も含めて、個々の課題解決の最適化に努めている。また家族の理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り等により情報を共有し、その都度カンファレンスを行い実践や計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度はコロナ禍により、あかり全体の行事はできませんでしたが、ホーム内で、毎月の誕生日会や、季節ごとの行事は行いました。(ホーム裏の桜見る会、古希、米寿等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、年2回の消防訓練の際、1回のみ町内会の方々も参加して一緒になって訓練を行いましたが、後1回はあかり1FDsと行いました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療を行っているので月2回の診察と体調に変化があった場合など速やかに連絡し、往診に来て頂いたり、指示をにしたがって行っています。	かかりつけ医のある場合は通院支援を原則としているが、現行は訪問診療を月2回行い、心身の変化に即応した対応に努め、また併設デイの看護師の管理を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ディサービスの看護師には体調に変化あった場合は直ぐに観ていただき、指示や主治医への連絡を速やかに行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中数回面会に行き、その時の状況を家族様に連絡し、医師と家族様、ホーム側との連携を常に行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様、主治医、ホーム側にて十分な話し合いを行い、いかに本人が最後までその人らしくホームで過ごしていただくかカンファレンス、ミーティングを常に行い、家族、職員共々に共有している。	重度化・終末期対応支援は、入所契約時の同指針に基づく合意を基に、個々の変化に即応して医療機関・家族等の協議で、最適対応に努めている。また医師による終末支援対応訓練を実施して支援体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内において、事故発生時の訓練や急変時の対応などにおいては、勉強会や訓練等を行い、マニュアルなども作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年地域との連携を行い、地域の方と一緒に行っていましたが、コロナ禍によりできませんでしたので、食品、水、照明等、備蓄の点検などを行い、今後に備えています。	災害対応は、通例は地域組織・消防署との連携・協力の下に、内部組織の役割、訓練想定のも明確化を図って実施している。食品・水・照明等備蓄の点検も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何よりもその方のプライドを損ねないように一人ひとりの誇りやプライバシー保護に努めている。また、個人情報管理の徹底を行なっている。	職員は事業理念を常に共有して、利用者個々の個性・尊厳を損なうことのないように、個々の状態をよく「みて・きいて・たずね・つたえる」真摯な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個性を理解し、何ができるのか、できないかを見極め、できないことへのお手伝いを行うように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々生活する中で利用者本意に事を運び、利用者一人ひとりの希望やペースに合わせた支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	殆どの方が一緒に洋服選びができなくなっている状態なので、選べる方は一緒に服選びを行っている。理容師により2ヶ月に1回ヘアカット、顔そりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合わせた食事の調理をスタッフが行い、食後、コミュニケーションを図りつつ、楽しみながら出来るよう支援しています。	食事は週間の献立表を作成し、主食と共に汁ものの具、果物、おやつを表示し、行事・季節に合わせた配慮がある。職員と協働の楽しいひと時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量を確保できるよう工夫しながら飲用して頂き、水分を摂りたがらない方には、ゼリー状にして摂取して頂くようにしている。個人の食事管理にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、本人の行き届かない部分には介助を行い、週に1度訪問歯科往診を利用し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、排泄リズムを把握し、自立排泄困難な利用者には時間帯でトイレ等での排泄誘導している。	排泄支援は自立支援を基本として、個々の生活リズムを職員が共有して誘導するなど支援している。また、着衣・衛生用品等も家族と相談して用いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防には毎日の運動を行い、排泄表を利用し、排泄リズムを把握し自立排泄困難な利用者には時間帯で排泄誘導行ったりしているが、それでも排便ない場合はヨーグルトにプルン等を混ぜて提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人に合わせた入浴を行い、重度化してきているので、1Fの器械浴やシャワー浴にて行ったり、湯船に入れる方は入浴剤を使用したりして入浴を楽しんでいただいています。	入浴支援にあつては(高齢化<90.4歳>・重度化(3度以上))の状況に合わせて、機械浴・シャワー浴・足浴等入浴剤等に配慮して、個々の楽しみと安らぎを得る入浴に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調やリズムに合わせて休息していただいています。夜間2～3時間おきに巡回を行うことで安心、安全確認に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬の効果・副作用について、内服薬シートを参考に勉強していただいています。その日の体調は常に把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った台所仕事や趣味などを行なう一方、共用空間の中でもその時に一緒に出来ることはおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍及び入居者の重度化ということもあり、殆ど外出はできませんでした。数回、東屋でお茶やお弁当を持ち、食べる程度しかできませんでした。	コロナ禍のさなか、高齢化・重度化の状況にあるが、花壇や畑の手入れ、近隣の花々を愛で、季節の変化を味わっている。東屋でのおやつタイムや、通例はデイサービスの車で、町内会の納涼会に出ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は立て替え方式を行っているので、本人が買い物などで欲しいものなどがあれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えなどがある時は電話をかけた、家族などからの電話をうけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの関係が出来、個々に合ったゲームや歌を歌うなどを行なう一方、共用空間の中でもその時の気分で一人で利用出来る様配慮している	ホームはデイサービス併用2階の1ユニット。居間・台所・介護機能設備を囲んで居室を配置。居間に出窓があり、陽当たりが良い。また、介護機能設備等の利用も至便(介護上も効果的)。居間では談笑・歌唱・ゲームを楽しむ、季節等の飾りつけに工夫した雰囲気がある。温・湿度、音量等の管理も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その場に合った照明の強度、TVやラジカセなどの音量の調整を行い、季節のお花や身体にあわせた椅子などを使用し、共用できるソファなどを用意し、利用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具・装飾品・写真を持って来て頂き、居心地良く生活してもらえよう工夫している。ご自身で作られた作品なども掲示している。	居室づくりの支援にあつては、家族の協力得て、個々の馴染みの調度品や写真・飾りつけなどに、居心地良い環境づくりへの支援がある。居室前にはメモリーボックスが設置され、思い出のモノが掲出できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーとなっており、居室入り口には本人の物とわかるような写真や飾り物などをメモリーボックス内に入れてある。		